

きほく人奮闘記



しろした まつき
城下 松喜さん

平成21年、宇和島市から奥さんとともにUターンした城下松喜さん。生前、畑仕事が生きが良かった城下さんのお父さんが遺してくれた田畑を守るため、日々、農作業に奮闘しています。

中学生の頃から耕運機を使いこなしていた城下さん。高校卒業後も、仕事の傍ら、お父さんにさまざまなことを教わりながら、農業に携わってきました。城下さんにとって「農業の師匠」とも言えるお父さんが亡くなったことをきっかけに早期退職し、本格的に農業に取り組み始めました。

現在、栗、ゆず、しいたけ、トマトなど多種多様な農作物を栽培している城下さん。「小さな種が実になるこの成長の過程が楽しい」と、農業の魅力を話します。「想像以上に良い物が実ったり、収穫量が多いととても嬉しい。中には、不作の年もあるけど、それもまた、来年の原動力となる」と、笑みを浮かべながら農業の楽しさを語っていました。

また、城下さんは昨年、名古屋コーチンの卵の飼育にも挑戦し、町内の道の駅に出荷。さらに、定期的に野菜の雑誌を見て情報を収集したり、気になった野菜の種を購入したりと常に向上心を忘れません。「今年は、昨年失敗に終わった里芋『伊予美人』の栽培に再挑戦したい。そして、サツマイモの品種を新たに3種増やして、全9種類の栽培にも挑戦したい」と、強く意気込んでいました。

「働くことが元気の証」と話すほど、エネルギー溢れる城下さん。「毎年作っているサツマイモはくわを使って掘る」と言い、「しんどいよりワクワクの方が大きいから、腰も痛くない」と、笑顔で話していました。

毎日楽しみながら農業に励んでいる城下さんは、「父に負けないくらい農業を精一杯頑張りたい。そして、地域に貢献できるような人間になりたい」と、父の背中を追い続ける姿がありました。

鬼丸 ぼのぼの日記

作 榊形 浩人
絵 にのみや なつみ



人口と世帯数	
人口	10,539人
男性	4,942人
女性	5,597人
世帯数	5,094世帯
※外国人住民を含みます。	

編集後記
▼宮城県白石市から株分けされた「トラフコウソ」。その歴史をたどると、なんとそのルーツは旧宇和島藩にあるといい、約400年の時を経て、また再び2市町が交流を持たせたことは、とても素晴らしいことだと思つと同時に、同じ志を持つ者は、どこかでつながっているんだなと感じました。
▼勇壮かつユーモア溢れる舞で観客を魅了した「鬼之里春日神楽」。この日の会場は満開の桜が咲き誇り、時折吹く風で桜吹雪も見られ、訪れた人たちはその美しさに感嘆の声をあげていました。そんな心地良い春の陽気の中、舞い踊る演者の皆さん自身が楽しんでいる様子が伝わり、見ているこちらにも楽しくなりました。(悠)